

## 2025年度グローバル・サービスラーニング A 実施報告(ホームページ掲載)

科目名	グローバル・サービスラーニング A 教員名 小関 隆志
実習先	インドネシア共和国 バリ島
実習期間	2025年8月20日(水)～9月2日(火)
テーマ	バリ島の社会課題を学ぶ

**目的(実習のねらい):** サービスラーニングは地域社会のニーズを汲み取り、それに対応した支援を通し、社会に対する責任感などを養うことを目的とした実習型の科目です。

バリ島は観光地として世界的に有名で、美しい景観や独自の文化を誇っていますが、地域社会は様々な課題を抱えており、困難を抱えた人も多くいます。孤児院や日本語学校で支援活動を体験し、また社会課題に取り組む企業・団体を訪問し、現地の大学生と交流することを通じて、社会課題にどう向き合えばよいかを考えることが、本科目の目的です。

**実習報告:** 2週間(実質12日間)の実習内容は以下の通りです。

(1) 孤児院での活動: 2か所の孤児院を訪問しました。8月28日に訪問した Angel Hearts 孤児院は主に未就学児や小学校低学年のための施設です。その子どもたちと一緒に遊び、折り紙を教えて交流しました。8月30日に訪問した Tat Twam Asi 孤児院はティーンエイジャーの女子の施設です。そこではカレーライスを提供し、子どもたちの笑顔に、私たちも元気をもらいました。

孤児院には寄付が集まっていて、生活に困っている様子があまり見られないのが印象的でした。孤児の中には白人との混血児も一定数おり、観光地としての現実の一端が垣間見えた気がしました。



写真左: Angel Hearts 孤児院 写真右: Tat Twam Asi 孤児院

(2) 日本語学校・専門学校での活動: Fuji 日本語学校にて、8月21日から29日まで5回にわたり、日本語授業の補助や、生徒との交流を行いました。日本語学校の生徒は、日本語を学んだあと、日本で数年間働きます。インドネシアと日本の賃金格差はまだ大きいからです。上級クラスの生徒は、日本の企業との面接・採用を目前に控え、日本語の会話も流暢でした。短期間でよくここまでマスターできたものだと感心させられました。日本文化を伝えるとともに、明治の学生はバリの民族衣装を着せてもらうなど、バリの文化体験もさせてもらいました。このほか、クルタウイサタ専門高校にも訪問し(8月29日)、文化交流を楽しみました。

## 実習報告(続き):



写真左 日本語授業での補助



写真中: 揚げバナナ作り体験



写真右: 民族衣装の試着体験

### (3) 社会課題に関連した調査・見学

今回は、ウダヤナ大学（バリ島にある国立大学）の社会政治学部と提携し、同学部の Sukma 教授などの協力を得て、明治大の学生の関心のある社会課題に沿って、調査見学を行いました。社会課題のテーマに沿って3つのグループ（環境、文化、経済）に分かれ、明治大の学生とウダヤナ大の学生がともに、企業や団体を訪問しました。

環境グループはごみ問題と水資源問題に着目し、漁業資源保護に取り組むNGOのWWF Bali、プラスチックごみ削減に取り組むNGOのPlastik Detoxを訪問し、水資源保護NGOのBali for Waterの担当者にもお話をお聞きしました。Plastik Detoxは、オフィスでも極力プラスチックを使わずに活動しており、かつ電気も自家発電だけで賄っていて、その徹底したサステナ



Plastik Detox のオフィス

ビリティに感銘を受けました。



Tekor Bali の経営者

文化グループは宗教と食文化に着目し、2つの対照的なレストランを訪問しました。ひとつはバリの伝統文化を継承することを目的としたTekor Baliで、伝統的なスタイルや材料で料理を提供し、利益重視ではなくヒンドゥー教の思想に基づいた経営をしていました。もうひとつは高級寿司店のAburi Sushiで、大型店を複数展開し、利益追求を前面に出していました。Aburi Sushiのほうは雇用創出や近代化、日本文化の普及といった社会的意義があると感じました。

経済グループは観光産業の持続可能性をテーマに選びました。マリオットグループのAloft Hotelを訪問し、ホールとレストランのスタッフに聞き取りをしました。ホテルをはじめとした観光業の人材獲得・育成や観光産業の直面する課題と展望などを幅広く聞くことができました。また、ウダヤナ大の学生に、バリの若者が観光分野をどのようにキャリア選択としてみているか、観光産業に関する問題状況を聞いて意見交換しました。



Aloft Hotel Kuta by Marriott

#### (4) その他諸活動

ウダヤナ大学の教授・学生とともに8月23日、バリ博物館を訪れました。バリ島の歴史や文化を展示している博物館で、古代の剣など貴重品を数多く目にすることができましたが、建物自体も伝統の重みを感じさせる、趣のあるものでした。ウダヤナ大の卒業生で、現在この博物館の職員をしている方が熱心に解説してくださいました。



バリ博物館を見学

8月31日には、環境問題に取り組んでいる高級リゾートホテルの Desa Potato Head にも訪問しました。このホテルはごみを極力減らし、リサイクルやアップサイクルに取り組んでいます。私たちは Waste Tour に参加し、アップサイクルの加工場を見学しました。ここまで本気でごみ削減に取り組んでいるホテルは、はたして日本にあるのだろうか?と感じました。



写真左 Desa Potato Head 正面  
写真右 Waste Tour での見学



#### (5) 観光・寺院見学・文化体験

休日や、活動終了後の自由時間にはバリ島内の観光地を巡りました。ウブドの棚田、島北部のバトゥール山、クタビーチなどを訪れて壮大な景色を楽しみ、カヌーを操る体験もできました。ヒンドゥー寺院や動物園を見学し、バリダンスを鑑賞し、豚の丸焼きなどバリ島ならではの珍しい食事を堪能してきました！ バリの景色や文化はいずれも素晴らしいものでしたが、それにも増して、バリ人の温かいおもてなしの心が心にしみました。どこに行っても温かく迎えてくれる、そんな安心感があり、居心地の良い場所でした。



写真左：バトゥール山を望む



写真右：バリダンス ダンサーとともに記念写真

**成果:** 孤児院や日本語学校での支援活動体験が今回の実習の柱となっていましたが、子どもたちとの交流や日本語教育の補助、文化交流を通して、背景の社会課題を垣間見ることができました。

また、環境・文化・経済の各グループがそれぞれの研究テーマに沿って企業・団体を訪問し、バリ島における様々な社会課題（ごみ処理、水資源、漁業資源、伝統的な食文化の保護、観光産業の持続可能性など）をリアルに見聞できました。今回はウダヤナ大学との提携により、現地の企業・団体訪問をアレンジしていただき、ウダヤナ大学の教授・学生が参加していただき、充実した活動となりました。

英語は、簡単な日常会話レベルにとどまらず、ウダヤナ大学の学生とのディスカッションや事前のやり取り、現地の企業・団体へのインタビューなど、本格的に英語を使う機会に恵まれました。

**その他:** 特になし

**学生の向上度:**

異質な環境下での臨機応変な対処・解決能力、英語での実践的なコミュニケーション能力、リーダーシップ、グループで意思決定や共同作業を行うチームワーク、文献調査やインタビュー調査を行う能力がそれぞれ向上しました。

**講座の難易度:**

全体としては教員主導で計画を立てましたが、グループでの調査見学においては学生主導でしたので、バランスがとれていたように思います。